

## 学位論文審査結果の要旨

|   |       |         |       |
|---|-------|---------|-------|
| 博士課程<br>①・乙   | 第 6 号 | 氏 名     | 坪内 拓伸 |
| 審 査 委 員   |       | 主 査 氏 名 | 北村 和雄 |
|   |       | 副 査 氏 名 | 有森 和彦 |
|   |       | 副 査 氏 名 | 村上 昇  |
| [論文題名]  |       |         |       |
| <p>Rikkunshito ameliorates bleomycin-induced acute lung injury in a ghrelin-independent manner.</p> <p>六君子湯投与はブレオマイシン誘導性急性肺障害をグレリン非依存性に改善する<br/> American Journal of Physiology - Lung Cellular and Molecular Physiology, 2014<br/> Feb;306(3):L233-45.</p>   |       |         |       |
| [要 旨]   |       |         |       |
| <p>本研究では、10週齢のC57BL6雄マウスのブレオマイシン急性肺障害モデルにおいて、六君子湯投与により生存率の改善、摂餌量や体重の減少抑制、気管支肺胞洗浄液中の炎症性サイトカイン濃度上昇抑制、肺上皮アポトーシスの抑制、肺コラーゲン含有量の増加抑制効果が認められた。血中グレリン濃度や胃組織中のグレリンmRNA発言量は六君子湯群で優位に高値だった。肺組織において、六君子湯群では対照群に比べ核内、細胞質内のNF-<math>\kappa</math>Bタンパク量の増加が抑制され、細胞質内I<math>\kappa</math>B<math>\alpha</math>タンパク量の減少が抑制されていた。一方、10週齢のグレリン欠損マウスやグレリン受容体欠損マウスのブレオマイシン急性肺障害モデルでは、六君子湯により生存率の改善、気管支肺胞洗浄液中の好中球増加抑制、肺コラーゲン含有量の増加抑制効果が認められたが、摂餌量低下や体重減少の改善効果は認められなかった。これらの結果は六君子湯投与によるブレオマイシン急性肺障害の改善効果を明確に示すとともに、改善効果のメカニズムを明らかにした興味深い研究であり、医学博士の学位論文に値すると判定した。</p> |       |         |       |